

FJ1600東北シリーズ第4戦

悲願の初優勝

笠江

延岡出身



カーレースのFJ1600東北シリーズ第4戦は10月19日、宮城県の仙台ハイランドで行われ、延岡出身(延岡西高卒)の笠江友和(ZAP SPEED所属、スポンサー「e-tec」)が初優勝した。

同レース前週のもてぎ第4戦をはじめ相次ぐ接触に苦しまされた笠江。その田舎を乗り越え、シリーズ通算2位に急浮上

する快挙となった。次はいよいよシリーズ最終戦「条件は厳しいがチャンピオンの可能性も出てきた」と笠江はこれまでに以上の闘志を燃やしている。

相次ぐアクシデント 乗り越え栄冠

今レースの1週間前に出場したもてぎ第4戦では悔しが残った。手廻し14位と決勝は苦しいスタ

通算順位も2位に浮上

ト。安定したテクニックで途中7位まで上昇したが、早い抜きを阻んだ先行車がスピニングしてコースをふさいだところ、追突、マシンの破損は大きく、結局12位でチェックアウトをせざるを得なかった。その前のレースでも、他車のトラブルに巻き込まれて接触しており、チェッカー後は「激しい怒りがこみ上げてきた」という。そして今回、懸念(うっぶん)を晴らした。

「ルボシジョンを」とあくまでもボシティブに構えた。予選序盤は、シリーズ連戦1位の同門・津山勇人がトップタイムをマーク。笠江はタイヤ、ブレーキを十分に温めて挑んだ5回目、陣身(こんしん)のアタックに出た。作戦は成功。決勝の先頭位置スタートをつかんだ。

このまま一気に走り抜けたところだが、決勝態(たい)がきつくと、立ち上がりでの加速が低いことが分かってきた。勝負を懸けたのは4回目。笠江はヘアピンで、思い切り立ち上がり重荷のラインを取ると一気に加藤を抜き去った。

そこからファステストラップを連発。後続をまったく寄せ付けないことなく、2位に5秒差を付けてるぶちぎりの優勝を果たした。次は最終戦となる。シ

たい笠江は「もう自分には後がないと分かっていて。絶対に勝つつもりで挑んだ。」

やる気はほぼ直前に不運は続いた。練習走行中に、今シリーズでもっとも激しい大クラッシュ。コース脇のフェンスに激突し、マシンの左フロント部が大破、自らのコックピット内で足を強打した。

原因はブレーキトラブル。メカニックの懸命な修理で立ち戻ったものの、次はミッドラップと続き、予選に向けた精神面の動揺が心配された。だがそこはプロ。夜遅くまで作業してくれたメカニックのためにも

(12回)ではいきなり4台に先を奪われてしまった。だが、落ち着きがあった。先頭のライバル津山がスピニング。その間、2台をかわし、3位浮上すると、激しく先頭を争う前車の脇を抜け、2位位置まで取り戻した。

残すは先頭を行く同門・加藤と敵のみ。仙台ハイランドは抜き所が少ないサーキットだけに、いかに相手のミスを見逃さないかがポイントだった。笠江は2回ほど、加藤の背後で弱点を探りに出る。

その結果、加藤のマシンはヘアピンでアンダーステア(ハンドルに対して車体が曲がりにくい状態)になり、立ち上がり



「と闘志を新たにしている。」